

## 研究主題 ソーシャルスキルの育成と指導の実際 ～知的障害養護学校高等部生の就労支援に向けて～

**要約:** 知的障害養護学校の高等部生徒が企業就労し、就労を継続していくためには作業遂行能力とともに良好な対人関係を築いていくことが大切な要因の一つである。そこで生徒の対人関係面での課題を克服するための支援方法としてソーシャルスキルトレーニングを授業で取り入れた。その結果、授業後の生徒の変容からソーシャルスキルトレーニングの有効性や就労に必要な課題を確認できた。

**キーワード:** 知的障害養護学校高等部 ソーシャルスキル 就労支援 ソーシャルスキルトレーニング  
ソーシャルスキルの指導プログラム

### I はじめに

知的障害養護学校の高等部を卒業した生徒の大半は就労という進路を選択する。就労には企業就労(一般企業への就職)と福祉就労(小規模作業所等の利用)がある。国立特殊教育総合研究所の調査(平成17年3月)によると増加傾向にある卒業生の数に対し、企業就労する生徒の割合は減少傾向にある。この減少に関しては重複障害のある生徒の増加、産業構造の変化、社会情勢等が理由に挙げられるが、生徒に対する課題としては、作業遂行能力だけでなく、コミュニケーションや対人関係面での難しさが指摘される。指摘される課題の具体例として、厚生労働省監修の「発達障害のある人の雇用管理マニュアル(平成18年)」という冊子にいくつか提示されている。

- ・立場の違いに応じた敬語の使い分けができない
- ・ストレートに自己主張しすぎて同僚や上司と衝突する
- ・わからないとき、困っているときに自ら助けを求めない
- ・注意されたときに適切な対応ができないことがある 等

このような対人関係面での課題を軽減・克服するための支援方法としてソーシャルスキルトレーニングが近年注目されている。この研究では就労支援の一つの取り組みとしてソーシャルスキルトレーニングを授業で行い、生徒の対人関係面での課題が軽減・克服されるかについて検証していきたいと考え、上記のテーマを設定した。

### II 研究の目的

- ・知的障害養護学校の高等部生徒の対人関係における課題を明らかにし、具体的な教育的支援について検討する。授業実践することでその効果について検証する。
- ・教育実践を通して就労に有効な支援のあり方について探る。

### III 研究の方法

- (1)知的障害養護学校の高等部生徒の就労に関する現状と課題について文献、先行研究、聞き取り調査からまとめる。
- (2)ソーシャルスキルに関して文献やweb ページを調査し、まとめる。他の養護学校や支援機関におけるソーシャルスキルトレーニングの実践を調査する。
- (3)(1)(2)から就労に必要なソーシャルスキルを選定・整理し、それを基に生徒の課題を把握するためのチェックシートを作成する。
- (4)ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた授業実践を行い課題について分析する。
- (5)調査結果や実践の結果を基に、就労支援に有効なソーシャルスキルトレーニングの指導プログラムを作成する。

### IV 研究の内容

#### 1 知的障害養護学校における就労支援の現状と課題

##### (1) 高等部卒業生の進路

文部科学省「学校基本調査(平成17年度)」によると、知的障害養護学校の高等部を卒業した生徒の進路状況は左

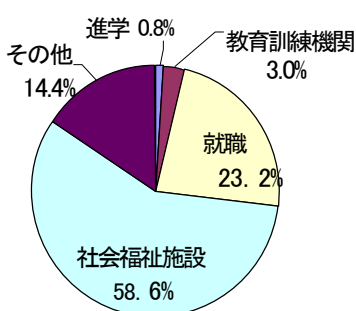


図1 知的障害養護学校高等部卒業生の進路別割合(平成17年度文部科学省)

のグラフの通りである。近年の傾向として社会福祉施設利用が半数以上、就職が約2割となっている。こうした状況の背景として、重複障害児童生徒の増加、産業構造の変化(製造業からサービス業中心へ)など学校内外の要因が背景としてある。

##### (2) 就労支援の施策

企業就労が難しくなってきたという現状を踏まえ文部科学省による就労支援の施策として以下の3つの具体策

が挙げられている。

- ・第3次産業に対応した教科「流通・サービス」の新設
- ・コンピュータや情報通信ネットワークの活用
- ・産業界との連携を図った就業体験の充実

(3)本校の就労支援

本校における過去5年間の就職状況は、福祉就労率が6割以上、企業就労率が2割前後となっており企業就労を希望する生徒には厳しい状況が続いている。そこでいくつかの就労支援の新しい取り組みを始めている。

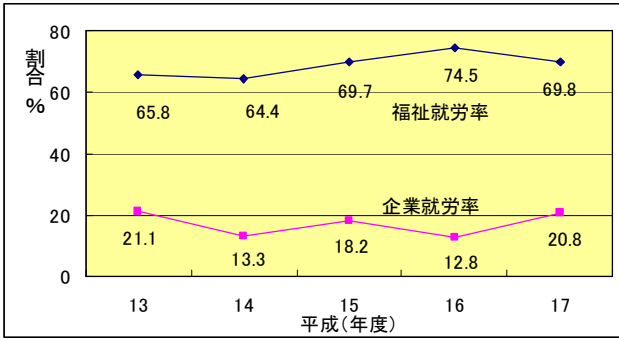


図2 本校卒業生の就職状況

①実践的な作業学習

「清掃班」では企業の人を講師として招き機器の操作について指導を受けたり、作業マニュアルを導入したりするなど企業就労につながる作業学習を行っている。

②就業体験実習

以前は2年生から行っていた就業体験実習を1年生から行うことで、高等部の早い時期から生徒自身や保護者が進路や適性について考えることができるようになった。

③実習生支援体制 (実習サポーター)

石川県進路指導充実事業の施策の一つとして委嘱実習サポーターの制度が導入された。本校でもその制度を活用し、教員とは別に実習先で生徒の支援に当たる支援者を「実習サポーター」と位置づけ、より充実したサポート体制を取ることができた。

(4) 県外養護学校の就労支援の動向

生徒全員の企業就労を目指す養護学校の設置が全国的に広まってきている。東京都においては、平成19年度に職業学科を持つ3つの養護学校の設置が予定されている。また大阪府では平成18年度に職業教育を柱とする「たまがわ高等支援学校」が開校された。京都市では平成16年度に職業学科を持つ2つの総合養護学校が設置されており生徒の100%の企業就労を目標に掲げている。

(5) 就労支援の現状と課題

- ・全国的に知的障害養護学校の高等部卒業生の企業就労率は低下の傾向が見られる。
- ・生徒の企業就労・職場定着には外部の就労支援機関との

連携は不可欠である。

- ・企業就労するには職場での良好な対人関係が重要である。

2 就労に必要なソーシャルスキルの理解

(1)ソーシャルスキルとは

本研究ではソーシャルスキルを「対人関係をうまく保ち、社会適応するために必要なスキル」として捉えている。そして、高等部の生徒が就労するにはどのようなソーシャルスキルが主に必要なのかを文献や先行研究からまとめた。

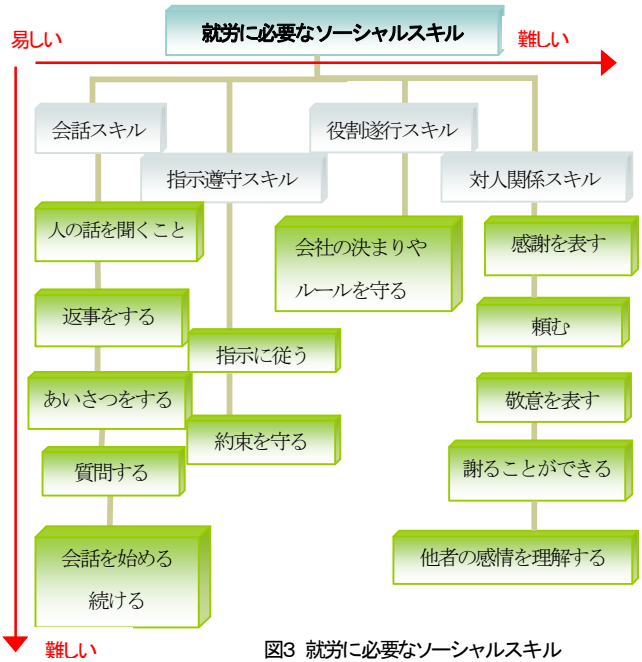


図3 就労に必要なソーシャルスキル

(2) ソーシャルスキルトレーニング

ソーシャルスキルトレーニングは対人関係やコミュニケーションに困難さを持つ子どもの支援方法として有効性が認められている。その指導技法について以下の図に示す。

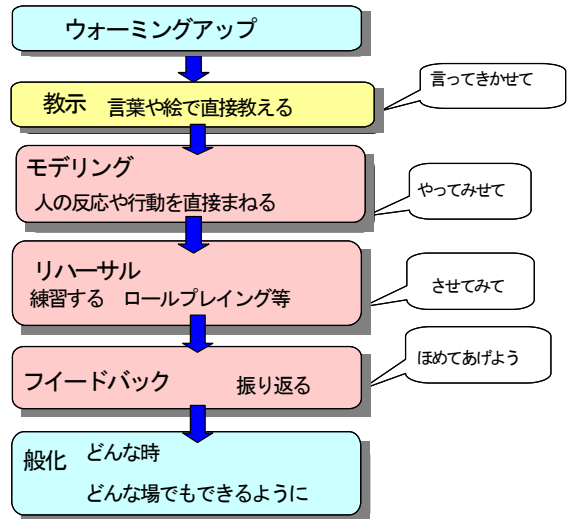


図4 ソーシャルスキルトレーニングの指導技法

3 ソーシャルスキルチェックシートの活用

(1) ソーシャルスキルチェックシート作成の目的

ソーシャルスキルトレーニングを実施するときに対象生徒のソーシャルスキルの実態を事前に把握することは必

要である。そのためにはソーシャルスキルの尺度となるチェックシートを用いることが有効だと考え、27項目から成るチェックシートを作成した。

(2) ソーシャルスキルチェックシート作成の方法

知的障害養護学校の高等部生が企業就労を目指すときに必要なソーシャルスキルについてまず47の候補項目を作成した。次にそれらについて養護学校の教員5名と就労支援機関の職員4名にアンケート調査を行い、その結果から27項目に絞り込んでいった。その後それらの項目を領域別に分類し、シートが完成した。

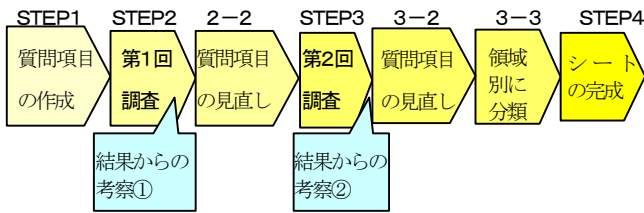


図5 ソーシャルチェックシート完成までの流れ

(3) ソーシャルスキルチェックシートの活用方法

チェックシートは以下の目的で活用する。

- ①生徒のソーシャルスキルに関する実態把握
- ②授業における指導効果の測定
- ③ソーシャルスキルの般化の確認

4 授業実践

(1) 目的：知的障害養護学校の高等部においてソーシャルスキルトレーニング（以下SST）を取り入れた授業を行い、対人関係上の課題を克服・軽減できるかについて事例を通して検証する。

(2) 対象生徒：高等部生徒2名（Aさん、Bさん）

(3) 実態把握

実態把握は主に対人関係面での課題を把握することに焦点を絞り、4つの視点から行った。

- ①ソーシャルスキルチェックシートによる実態把握
- ②行動観察
- ③自分についてのアンケート
- ④WSC-Ⅲ知能検査

〔実態把握の結果より〕

Aさん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語によるコミュニケーションは可能で自分の言葉で気持ちを表現できる。</li> <li>・集団活動には自ら進んで取り組むが協力して課題に取り組むことは苦手である。</li> <li>・他の生徒を注意してトラブルになることがある。</li> <li>・実習先で敬語を使うことが難しい</li> </ul>
Bさん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の理解こやや困難さが見られる。</li> <li>・人と関わりたい気持ちはあるが一方的な関わりになってしまう。</li> <li>・わからないことがあっても自分から質問したり、仕事が終わっても報告することが難しい。</li> </ul>

2名の実態把握の結果からSSTの題材を選定

(4) 指導目標


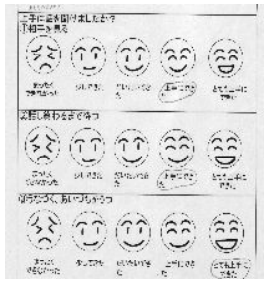

- Aさん(相手の立場を理解してやりとりする)
- Bさん(自分から質問や報告ができる)

(5) 指導期間 7月～10月 合計8時間

(6) 指導計画

- ①第1次〔就労に必要なスキル〕2時
- ②第2次〔グループとして必要性の高いスキル〕3時
- ③第3次〔個別の課題となっているスキル〕3時

(7) 指導の経過

	題材名と生徒の様子	活動の様子
第1次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつをしよう</li> <li>・質問しよう/物の貸し借り</li> </ul> <p>Aさん 実習後すぐの授業であったので意欲的だった。</p> <p>Bさん ロールプレイングではセリフの提示がないと難しかった。</p>	 <p>視覚教材を使ってスキル提示</p>
第2次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上手な聞き方</li> <li>・丁寧な言葉遣い</li> <li>・自分の気持ち、相手の気持ち</li> </ul> <p>Aさん 相手の話を聞くときに頷いたり、あいづちを打つのは難しかった。</p> <p>Bさん 相手を見て話を聞くのは苦手な様子で声かけが必要だった。</p>	 <p>授業後のアンケート</p>
第3次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気分が悪くなったとき</li> <li>・声の大きさは</li> <li>・失敗したとき</li> </ul> <p>Aさん 自分の声の大きさに気をつけるようになった。</p> <p>Bさん 失敗したときにどのように言えばよいのかを自分で考えることは難しかった。</p>	 <p>今日の体調をチェック票に記入</p>

(8) 結果と考察

授業者による評価からの分析 題材毎に評価項目(全25項目)を設定し、生徒の様子を3段階で評価した。Aさんの授業前の評価と授業後の評価を比較すると苦手な項目だった「丁寧な言葉遣いをする」と「声の大きさに気をつける」ことの評価がどちらも「できる」に変化していた。

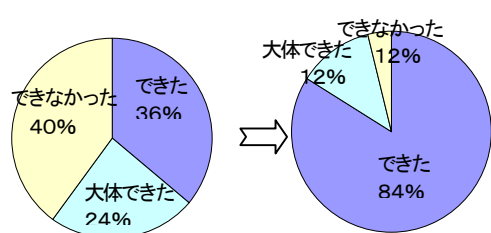


図6 Aさんの授業前の評価

図7 Aさんの授業後の評価

**就業体験実習における評価からの分析** 就業体験実習において授業者による評価と同じ項目について評価した。評価は担任が行った。Bさんは授業前の評価では「質問すること」や「話の聞くこと」が苦手であったが、実習では自分から質問したり、仕事が終わったときの報告ができるなどの変容が見られた。

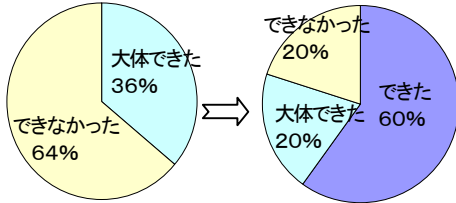


図9 Bさんの授業前の評価 図10 Bさんの実習後の評価

**実践を通しての分析** 授業前に、生徒の実態把握の一つとして行ったチェックシートの記入を授業実践後に再び行った。Aさんは27項目中20項目で、Bさんは27項目中13項目で点数の増加があった。授業で取り上げた題材のスキルではAさんは11項目中8項目、Bさんは11項目中7項目で増加したことがわかった。

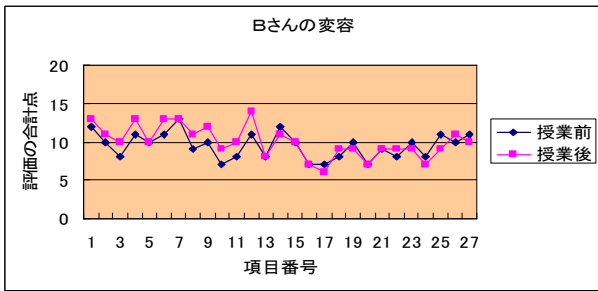
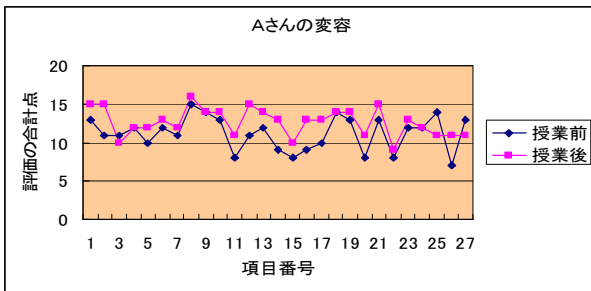


図8 チェックシートの評価の合計点から見る変容

以上の3つの視点から生徒のソーシャルスキルの獲得の状況について考察を行った。就業体験実習での評価を分析するとAさんは48%、Bさんは60%の割合でスキルが獲得されたと考えられる。ただ2名とも課題となっていたスキルが身についたが、実習先への就労には結びつかなかった。この実践を終え、就労するためにはスキルの獲得だけでなく様々な要因が必要であることがわかった。

### 5 ソーシャルスキルトレーニング(SST)のプログラム

授業実践の結果と考察を踏まえ、SSTを行うときに活用できる指導プログラムを作成した。

#### (1) スキルの題材表

ソーシャルスキルチェックシートを基にそれぞれの項目の重点目標とそれに見合った題材を提示し、ソーシャルスキルトレーニングの題材表を作成した。

#### (2) 指導プログラムの試案

次にソーシャルスキルチェックシートと題材表を活用し、3つのタイプ別指導プログラムの試案を作成した。

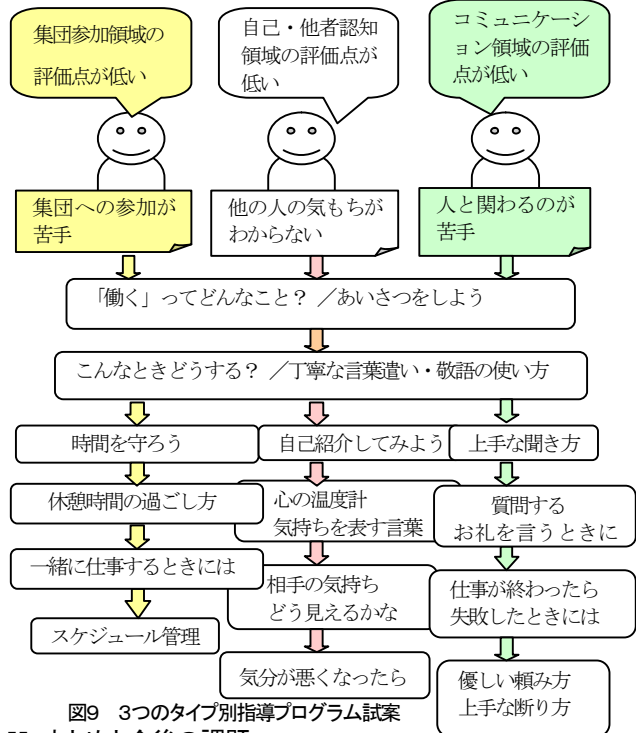


図9 3つのタイプ別指導プログラム試案

### V まとめと今後の課題

#### 1 まとめ

本研究では、『ソーシャルスキルと就労支援の関係』『ソーシャルスキルトレーニングの有効性』『指導プログラムの作成』と3つの柱を中心に研究を行い、以下の結論を得た。

#### 2 今後の課題

- ①就労には作業遂行能力と同時にソーシャルスキルも必要であり、そのスキルを身につけさせるにはソーシャルスキルトレーニングが有効である。また就労に対する意欲の向上にもつながる。
- ②スキルの獲得が即、就労につながるのではなく、就労には様々な要因が関係している。
- ③プログラム試案に題材を追加したり、苦手な部分を繰り返し指導すれば、より個々のニーズに合ったプログラムが作成できると考えられる。

知的障害養護学校の高等部生徒がソーシャルスキルを身につけ、就労につなげるため今後取り組まなければならない課題として主なものあげるとすれば、

- ①ソーシャルスキルチェックシートの改良
- ②発達段階や障害の特性に応じた指導方法や教材の開発
- ③セルフエスティームを高める授業の工夫
- ④進路指導と教育実践の連携
- ⑤将来を見据えた進路指導のためのキャリア教育の理解
- ⑤キャリア教育の理解 などが今後の課題である。

